

2023年頭所感

会長 白川儀一

2023.01.01

新年、あけましておめでとうございます。

2023年の新春を迎えるにあたり、年頭のご挨拶を申し上げます。

1. はじめに

昨年は、3月に福島県沖で発生した大規模な地震、6月に関東地方を襲った雹、9月に非常に強い勢力で上陸した台風14号・15号など、自然災害が猛威を振るい、全国各地で大きな被害を受けた年でした。お亡くなりになった方々に哀悼の意を表しますとともに、ご遺族および被災者の皆さまに心からお見舞い申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大から約3年が経過しました。これまで、変異を繰り返しながら世界で猛威を振るい続けてきた新型コロナウイルスは、私たちの生活や働き方を大きく変化させてまいりました。足もとでは、より効果的な感染防止策等を講じることで、平時の社会経済活動を取り戻すべく「ウィズコロナ」への移行が進みつつあります。



また、ロシアによるウクライナ侵攻、北朝鮮による相次ぐミサイル発射といった顕在化している地政学リスクに加え、台湾における安全保障上の懸念も高まっており、世界経済の先行きへの不透明感が一層強まっています。

このように、不確実な環境においても、様々な課題に対応し社会のレジリエンスを高めることが、損害保険業界の社会インフラとして求められる役割です。

当協会は、「安心かつ安全で持続可能な社会の実現」、そして「経済および国民生活の安定と向上」の実現に向け、引き続き真摯に取り組んでまいります。

2. 本年の主な取組み

当協会は、2021年から「持続可能なビジネス環境の整備」、「災害に強い社会の実現」、「損害保険リテラシーの向上」を重点課題と定めた第9次中期基本計画を推進しています。当中期基本計画を踏まえ、本年度は特に、「気候変動・自然災害」、「デジタル・トランスフォーメーション（DX）」を柱として、各取組みを進めてまいりました。

本年も引き続き、以下のような取組みを進めてまいります。

（1）気候変動・自然災害

- ・ 気候変動により自然災害が激甚化・頻発化するなか、防災・減災に向けた取組みとして、国や自治体と連携し、ハザードマップの活用など地域特性に沿った防災施策や災害への備えの啓発活動に取り組んでまいります。
- ・ お客さまをトラブルから守るため、災害に便乗する悪質な業者への対策として、注意喚起チラシの展開、自治体・警察と連携した関連情報の発信、AI検知ツールの浸透に向けた取組みなど、引き続き様々な施策を講じてまいります
- ・ 内閣府等主催の総合防災イベント「ぼうさいこくたい（防災推進国民大会）」について、本年は、関東大震災から100年の節目を迎えることを受け、震源地（相模湾）も考慮し、神奈川県で開催予定です。引き続き、「地震保険」の重要性、防災における十分な地域連携の重要性につき、発信してまいります。

（2）デジタル・トランスフォーメーション（DX）

- ・ 損害保険業界共通で必要な手続きや事務処理について標準化・共通化を加速させ、お客さまや代理店の皆さまの利便性向上に寄与するべく、取組みを進めてまいります。保険料控除手続きのペーパーレス化の浸透につながる「保険料控除証明書発行サービス」についても、システムの安定運営ならびに利便性向上を図ってまいります。
- ・ サイバー攻撃などの中小企業におけるリスクの認識状況の調査によると、リスク対策として損害保険に加入している企業は約5割に留まっています。デジタル社会のもたらす負の課題に対する社会全体の対応力向上のため、関係団体と連携し、様々なコンテンツを活用し啓発活動を強化してまいります。

その他にも、若年層の損害リテラシーの向上、保険事業の環境整備、募集品質向上に関する取組みなど、損害保険業界の継続的な取組みについても着実に進めてまいります。

3. おわりに

本年の干支は、十干十二支で「癸卯（みずのと・う）」となり、物事の終わりと始まりを意味する「癸（みずのと）」と、安全や温和、また跳ね上がるという意味のある「卯（う）」の組み合わせから、「これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍するような年」と言われています。本年は、G7広島サミットが開催される年でもあり、日本の存在感を世界に向けて発信し、「勢いよく成長し飛躍する」起点となる年となることを願っています。

損害保険業界としては、環境変化に適時・適切に対応した各種取組みを実行することで、社会に貢献してまいりたいと考えており、引き続き、皆さまのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年が皆さまにとって素晴らしい一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

以 上